

令和6年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

小中高連携「CAN-DOリストに基づく児童生徒の発信力強化のための言語活動の質的向上」
～伝えたいという思いがあふれ、自分の言葉で自分らしく表現できる児童の育成～

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

教員の指導力

- ①授業における、児童の英語による言語活動時間の割合
↑ (R4:89% → R5:90%)
- ②自信をもって授業を行う小学校教員の割合
↑ (R4:48% → R5:52%)

CAN-DOリスト

- ③学習到達目標の整備状況
↑設定 (R4:68% → R5:76%)
↑公表 (R4:44% → R5:50%)
➡把握 (R4:61% → R5:61%)

小・高連携

- ①英語教育に関して、高等学校と連携をしていますか。
▲ (R4: 8% → R5:13%)

教員の指導力

- ②小学校教員の授業における英語使用状況
➡ (R4:56% → R5:56%)
- ③ALTが中心となって指導（単元構想含む）する割合
▲ (R4:30% → R5:27%)

2. 要因分析

↑ 改善が見られた要因

- ①②各校の外国語教育推進教員を対象に、授業協議や演習を行ったことで、一人一人の学びに応じた支援や指導を授業に取り入れることの意義について学ぶ機会があったことや、学び続ける教員を支援する情報共有サイトの開設により、研修の機会が増えたことが英語の指導力改善につながったと考えられる。
- ③CAN-DOリストを公開授業研修会で配布したことや、年間を通じて様々な研修の中で、CAN-DOリストについて触れたことが学習目標の整備につながったと考えられる。

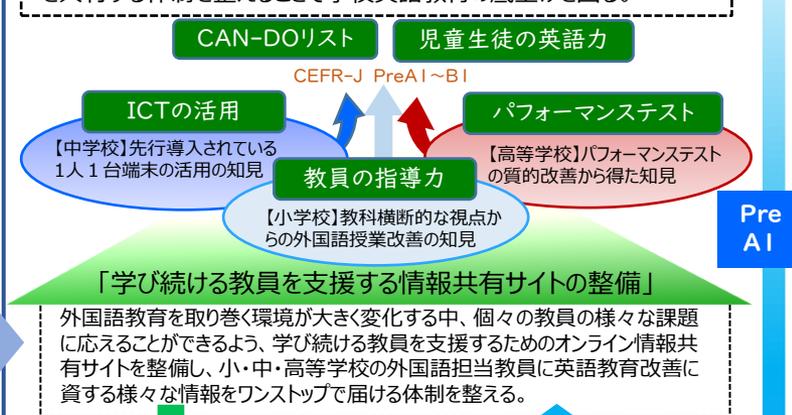
▲ 引き続き課題となっている要因

- ①小学校は、高等学校との連携を図ることが難しく、外部からの働きかけが必要だと考えられる。
- ②③他教科と比べて、外国語活動・外国語科について専門性を持った教員が少なく、外国語を使用することや単元計画を作成することに不安を感じていることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③ 小中高連携による施策

これまで取り組んできた小中高連携による「児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を軸に、各学校段階で得た知見や強みを共有する体制を整えることで学校英語教育の底上げを図る。



小学校重点施策

- ①②「小学校外国語科・外国語活動授業づくり研修」授業づくりに係る講義、演習を通して、英語指導力向上を図るとともに、自校の英語教育推進を図る。
- ③「ALT資質向上事業」ALTや専科教員に対し、実践研修を通して資質及び指導力の向上を図る。

「小学校英語専科指導に係る加配定数活用」
小学校教員採用試験において、英語資格・英語免許保有者に対する加点制度を実施している。

令和6年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

小中高連携「CAN-DOリストに基づく児童生徒の発信力強化のための言語活動の質的向上」
～関わりながら他者への理解を深め、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 36% → R6: 45%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

CAN-DOリスト

- ①学習到達目標の整備状況
 - ➡設定 (R3~R5: 100%)
 - ➡公表 (R4: 63% → R5: 66%)

小・中連携

- ②英語教育に関して、小学校と連携をしていますか。
 - ➡ (R4: 66% → R5: 77%)

生徒の英語力

- ③令和5年度全国学力学習状況調査(英語)中学校正答率
 - ➡ (全国: 45.6% 県: 46.8%)

生徒の英語力

- ①CEFR A1相当以上の英語力を有する生徒の割合
 - ⬇ (R4: 38% → R5: 36%)

CAN-DOリスト

- ②学習到達目標の整備状況
 - ⬇把握 (R4: 83% → R5: 79%)

教員の指導力

- ③授業における英語使用状況が50%以上
 - ⬇ (R4: 66% → R5: 64%)

2. 要因分析

↑改善が見られた要因

①②③小中高連携事業では、CAN-DOリストに紐づいた言語活動の作成に校種を超えて取り組んだ。CAN-DOリストの活用方法についての理解が進み、その成果発表をハイブリッド形式で行い、県内により広く伝達することができた。また、「学び続ける教員を支援する情報共有サイト」の開設により、英語推進教員の研修の機会が増えたことも指導力改善につながったと考えられる。

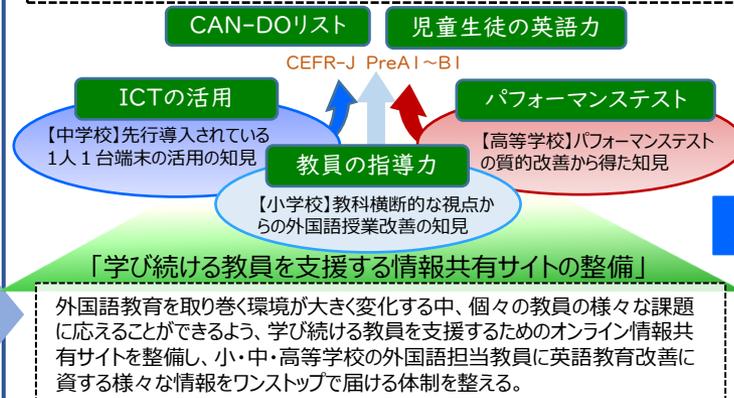
▲引き続き課題となっている要因

- ①②研究協力校3年生(177名)による、外部資格検定試験の結果ではCEFR A1以上の生徒は、89%であるのに対し、県全体の実施状況調査の結果では、36%である。この結果から、指導力向上を今後も図るとともに、CEFRのレベル感を把握する力に課題があることが要因として考えられる。
- ③中学校外国語科授業づくり研修が、希望研修だったため、県内全体の指導力向上を図ることができなかったことが要因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③小中高連携による施策

これまで取り組んできた小中高連携による「児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を軸に、各学校段階で得た知見や強みを共有する体制を整えることで学校英語教育の底上げを図る。



中学校重点施策

- ①②「中学校英語指導力向上事業」
静東地区・静西地区の中学校を研修協力校として運営協議会、連携推進会議、校内授業研修会を通して、英語指導力向上を図るとともに、公開授業研修会を対面とオンラインのハイブリッドで開催し、成果普及を図る。
- ①③「中学校外国語科授業づくり研修」
中学校における外国語教育の推進に向けて、外国語教育を推進する学校教員に対し研修を行い、外国語教育に携わる教員全体の指導力の向上を図る。

A1

令和6年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

小中高連携「CAN-DOリストに基づく児童生徒の発信力強化のための言語活動の質的向上」
～社会について理解を深め、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成～

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5:A2以上55.7%、B1以上20.7% ⇒R6:A2以上60%、B1以上30%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

CAN-DOリスト

①学習到達目標の公表
↑ (R4:39.6%→R5:51.4%)

パフォーマンステスト

②パフォーマンステスト実施回数
スピーキング、ライティング両方実施
↑ (R4:56.1%→R5:77.1%)

ICTの活用

③生徒のICT活用状況
話す活動(発表/やり取り)
↑ (R4:80.0%→R5:96.4%)
キーボード入力等で書く活動
↑ (R4:63.5%→R5:82.1%)

CAN-DOリスト

①学習到達目標の把握
↓ (R4:100%→R5:68.5%)

パフォーマンステスト

②パフォーマンステストの質のばらつき
CAN-DO視点でテストを作成でき
ている学校の割合
→ (R4:32.2%→R5:33.3%)

ICTの活用

③生徒の活用場面で、身に付けさせ
たい資質・能力を意識しているか。
(あまり・全く)していない35.6%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

↑改善が見られた要因

- 「CAN-DOリストに基づく指導と評価の計画」の提出により、年間指導計画とCAN-DOが結びついてきている。
- CAN-DOリストの達成状況を測るために実施したパフォーマンステストを全ての公立高等学校から回収し、外部専門機関による分析・評価結果を悉皆研修にて各校へフィードバックした。
- R 5年度から1人1台端末が本格導入された。定期訪問の校内研修会や年次別研修等でも、ICTの活用について扱うことが増えている。

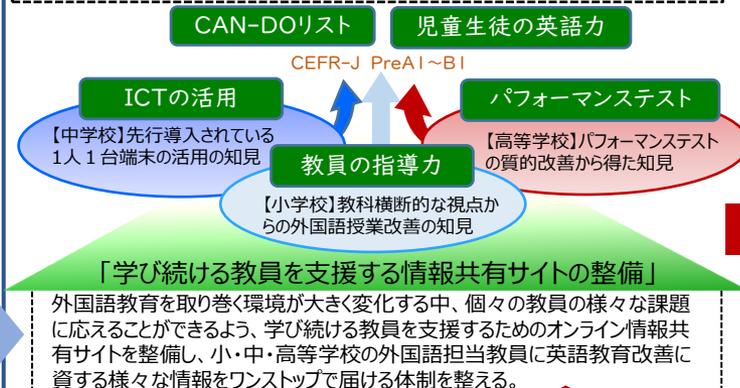
▲引き続き課題となっている要因

- 「CAN-DOリストに基づく指導と評価の計画」を作ること自体が目標になってしまい、作成した計画と目標、評価が結びついていない。引き続き、指導と評価の一体化について、理解を深めていく必要がある。
- 生徒がICTを活用する場面は増えているが、コンピテンシーベースになっていない。ICTの活用は手段であり、目的は資質・能力の向上であるということを周知していく必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③小中高連携による施策

これまで取り組んできた小中高連携による「児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を軸に、各学校段階で得た知見や強みを共有する体制を整えることで学校英語教育の底上げを図る。



高等学校重点施策

- 「新時代に対応した英語指導力向上サポート研修 (GRID)」 (継続)
- 「CAN-DOリストに基づく4技能型テスト作成力向上研修」 (修正継続)
- 「自治体連携オンライン英語授業改善サポート研修」 (継続)
アライアンスを組んでいる自治体との合同オンラインセミナー、オンラインゼミナール等
- 「1人1台端末時代に求められる教科指導向上研修」 (継続)
令和5年度からの1人1台端末の本格的導入を踏まえて、授業にてICTが効果的に活用され、英語コミュニケーション能力を効率的に身に付けることができるよう、外部専門機関の助言や小中学校の知見を得ながら、他教科も巻き込んだ研究を継続する。

A2

B1

静岡県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	55.7	60		60		60		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	20.7	30		30		30		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	53.8	75		75		75		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	77.1	80		80		85		85		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.1	100		100		100		100	
		公表(%)	80	51.4	80		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	100	68.5	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	82.3	85		85		85		85		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	44.0	65		65		70		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	36	45		50		55		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	75	80		85		90		95		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	82	90		95		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	66	75		80		85		90	
		達成状況の把握(%)	85	79	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	49	55		60		65		70		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90	64	75		80		85		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80	76	85		90		95		100
		公表(%)	50	50	55		60		65		70
		達成状況の把握(%)	65	61	70		75		80		85